

全大教新聞

2020年8月10日

第374号

【発行所】

全国大学高専教職員組合
(略称・全大教)【PDF版(全面カラー)】
http://zendaikyo.or.jp/?page_id=107

【電話】03-6802-4250

【HP】<http://zendaikyo.or.jp/>【所在地】〒110-0012
東京都台東区竜泉
2-20-15 都築ビル2階* 組合員の購読料は
組合費に含まれて
います(一部30円)

今月の紙面

- 2 職場の声を形に「加盟組合からの報告」
「島根大 教育基盤経営の削減問題」「山口大
臨床系教員への裁量労働制適用をめぐる」
「コロナ対応下の労働実態アンケート中間まとめ」
- 3 論壇「オンライン授業がひろく」「これからの
大学」岡山大学文学部准教授 松村圭一郎
- 3 職場のQ&A 勤務時間・労働時間のアレコレ

- 4 単組からのレポート
「富山商船高専「コロナ禍における、教
職員の労働安全衛生に対する機構本
部の希薄さ」」
神戸大学特別支援学校支部「課題を共
有した上での連携した運動づくり」
- 4 わたしもひとこと

Web単組交流集会を開催 7.18

労働条件、附属学校・高専の状況、大学運営について情報交流

2020年7月18日の午後、「7・18全大教ウェブ単組交流集会」を開催しました。現在、新型コロナウイルス危機で直接対面での集会ができない状況にあります。集会はその危機下でこそ必要と思われる単組間の情報交流を目的としたものです。37単組から52人、中執等を含めた合計で69人が参加しました。

内容としては、全大教中執・河合中執から労働条件に関する報告として「在宅勤務等の新型コロナウイルス対応下の労働問題」、全大教附属学校部・黒川部長から「附属学校の新型コロナウイルス対応」、全大教高専協議会・岡本議長から「高専の新型コロナウイルス対応」、全大教中執・鳥畑委員長から新型コロナウイルス対応下の大学運営の問題点として「検証 新型コロナウイルス感染に各大学はどう対応したのか?」「行動指針」の作成・運用と学生救済を中心とした4つの報告を頂いた後、これらに基づいて交流を行いました。

■労働条件に関して

河合氏から主として在宅勤務(テレワーク)に関する労働問題を報告頂きました。まず使用者は、労働契約締結時に「就業の場所」を明示しなければならぬ(労基法15条)ことが指摘されました。そして在宅勤務における費用負担の問題と労働時間管理の問題、安全確保の報告がありました。

■附属学校部から

3月の一斉休校以降の混乱、オンライン授業に関する困難、対面授業再開に付随する問題、児童生徒・保護者・教師に対する心理的ケアの必要性

等の報告がありました。交流では参加してくださった附属学校教員からの報告がありました。中学校、小学校、特別支援学校それぞれの共通する問題と異なる問題があることが明確になりました。労働条件の問題が明らかとなりました。

■高専協議会から

遠隔授業や在宅勤務にまつわる問題、また対面授業に関する問題などの報告がありました。対面授業への対応については各高専で対応がまちまちで、対面授業を再開しているところもある状態です。再開しているところでもその対応は高専によってバラバラであるとのこと。対面授業再開にともなう実習授業が集中して行われ、実験担当の教員の負担が大変なことになっている高専もあるよ

■大学運営に関する報告

今回は主にガバナンスに関する学生支援に関することに焦点をあてて報告がありました。ガバナンスに関しては、運営費交付金や中期目標・中期計画の縛りが非常事態に対する大学の動きを妨げる方向に働いたのではないかと、また教

新型コロナウイルス感染症への
対応下での労働実態・教育研究状況

アンケート ご協力をお願い

回答ページ↓(5分くらいです)
https://zendaikyo.or.jp/?page_id=2198



8月末まで

本アンケートは新型コロナ対応下や今後の教育研究活動にあたっての労働条件・教育研究環境の改善を目的とするものです。多数の声を集め、より説得力をもって、文科省要請等に活用することとしています。

されました。ただ、各大学とも十分な資金がない中、どのように学生支援を行うか苦慮している状況のようが見えました。

紙面の関係で個々の事例をここでは紹介できませんが、交流集会では具体的な事例の報告も多く、さまざまな問題に気づかされました。参加された方の感想文でも単組の取り組みのヒントを得られたとの感想やあるいは具体的にいった取り

組を書いていた方もあり、単組間交流、また全大教と単組との情報交換として非常に有意義でした。また、附属学校や高専の状況について当事者以外の方も含めて全体で共有し、問題点を把握できたことも成果であったと考えます。

(副委員長 笹倉万里子)